

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

人生とはいま、この時を生きていくこと

佐治 晴夫 (理学博士、現在、リベラルアーツ教育の実践を全国的に展開している)

- 私は人間の寿命について、いつしかこう思うようになったのです。私たちは身近な人や友人など「他者の死」に遭遇します。これは現実として受け止めることができる。しかし、自分が死ぬ「一人称の死」は意識することができません。人間は生まれた時も死ぬ時も覚えていないんです。だとしたら、自分にとっての時間とは一体何なのだろうか。
- カトリック教会の司教で哲学者だったアウグスティヌスは「現在イコール永遠」と定義した。私たちは過去を過ぎ去ったものと考えますが、そう考える自分は現在にいる。つまり過去も未来も現在に含まれ、それが永遠に続く。ということは、私たちの人生は、「いま、ここに」しかないのです。
- カトリックには「自分が死ぬことを忘れるな」、その対語として「今日の花を摘むように、今を生きなさい」という教えがありますが、人生は突き詰めると、「いま、この時を生きていくことだ」というのが、89年間生きてきた私の人生観です。

(参考:「致知」2024年6月号)

幹部への活きた言葉

「心の健康」への取り組みと成果

- 経営者の双肩には従業員やその家族の生活がかかっている。困難な状況下でも、重圧に押しつぶされないためのメンタルケアが必要だ。人的資本経営の重要性が叫ばれる中、従業員のメンタルヘルスの状態、いわゆる「心の健康」に対する具体的な取り組みの成果を可視化する動きも高まっている。例えば旭化成は22年度から、役員報酬の指標として「メンタルヘルス不調による休業者率」も公表し、報酬額を連動させるようにした。
- 大和証券グループ本社が21年から新入社員向けに実施している「マインドフルネス(瞑想=めいそう)研修」がある。マインドフルネスは、瞑想や呼吸法などを通じて不安と向き合うことで心を楽しむ行為。うつ病の再発予防にも効果があるとされ、米グーグルや米アップルなども研修に取り入れている。ブッダは、富や権力を追い求めても人は苦しむだけと説いた。心に平穏と充足感がもたらすためには、欲求を捨てることだ。

(参考:「日経ビジネス」2024年4月15日号)

経営者のための危機管理

社外取締役が会社にしがみつ়く弊害

- 創業経営者にとって、自らこの世に生み出した企業はいとおしい。だから経営者の立場にしがみつ়き老害となる。分別ある社外取締役(社外取)がそれを戒める。これが、一般的に想起されるガバナンスの構図だ。しかし、経営者ではなく社外取こそが企業変革を阻害する事例が少なくないのだ。
- 万端で責任感のある社外取は経営者との対決を恐れない。問題なのは官庁・政府系機関の出身者や個人事業的な士業(弁護士、公認会計士など)の人物だ。退職後の名誉職のつもりでいたり副業感覚丸出しであったりする。こうした社外取は経営者におもねる。社外取の能力が十分かといえば必ずしもそうではない。だからこそ保身に走るのだ。粗製濫造された社外取に企業再編のカギを握らせるのは、企業にとってもこの国にとっても損失ではないだろうか。

(参考:「週刊東洋経済」2024年3月16日号)

古典に学ぶ

気づきは悟りへの道

- 彼岸に渡れるにもかかわらず、この世で人々が悟るのを助けている菩薩。その境地を、仏教では「自未得度千度他」といいます。現代風というなら、「お先にどうぞ」の心です。
- 「自分は、我先にと考える。ダメだな」と思ったあなた。落ち込む必要はありません。それは、「無明の自覚」といって大事な気づきです。悟りへの道は、その自覚から始まります。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)